

全体総括

○計画期間：平成19年5月～平成24年9月（5年5月）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

集約型の都市構造を目指し、多くの市民にとって暮らしやすい社会を実現するため、「まちなか居住の推進」、「商業の活性化の増進」、「にぎわいの創出」を基本的な方針及び目標に掲げ、各種の活性化事業に取り組んできた。

その結果、再開発事業や駅前広場整備など核的開発が進んだ岐阜駅周辺を中心に、まちなか居住とにぎわいの創出が一定程度進む一方で、柳ヶ瀬においては商業活性化やにぎわい創出が十分に達成できたとは言えない状況である。

岐阜駅周辺では、岐阜シティ・タワー43や岐阜スカイウイング37などの再開発事業や民間マンションなどによる大規模な住宅供給が進んだ結果、長く続いた居住人口の減少傾向に歯止めがかかった。さらに岐阜駅北口駅前広場の整備など核的開発が進んだことから、歩行者・自転車通行量も増加し、新たなにぎわいの創出が図られている。

一方、柳ヶ瀬においては、岐阜市柳ヶ瀬あい愛ステーションの開設や商店街イベントの実施、空き店舗対策事業の拡充など、各種事業を展開したものの、リーマンショック以降の長引く景気低迷の影響は大きく、商品販売額は減少傾向、歩行者・自転車通行量も想定を下回り、活性化は道半ばと言える。ただ、平成23年4月にオープンしたドン・キホーテ柳ヶ瀬店周辺では新規出店が徐々に進み、若者も多く見かけるようになり新たな活気が生まれている。また、現在、高島屋南地区の再開発の計画が着実に進行しており、柳ヶ瀬の活性化に向けて大いに期待される。

さらに、岐大跡地周辺においても、（仮称）中央図書館や（仮称）憩い・にぎわい広場等を整備する、つかさのまち 夢プロジェクトが進行しており、事業完了後には施設利用者等によるにぎわいの創出が期待される。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した      ②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた  
②若干の活性化が図られた  
③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）  
④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

基本計画に掲げた71事業のうち、完了あるいは実施中の事業は56事業、実施率は全体の約79%となっており、一部の事業では遅れや計画変更が生じているものの、概ね予定どおり進捗させることができた。

その結果、岐阜駅周辺を中心に、まちなか居住者や歩行者等通行量は増加しており、目標値を上回ることはできなかったが、一定の活性化が図られたと考える。（居住人口については基準値を上回り、通行量については平成23年度に目標を達成。）

ただし、柳ヶ瀬については新たな活気が生まれつつあるものの、柳ヶ瀬の通行量は基準値を下回り、活性化は道半ばであると考えられる。

### 3. 活性化が図られた(図られなかった)要因(岐阜市としての見解)

岐阜駅周辺において、まちなか居住やにぎわいの創出が進んだ要因は、活性化に大きなインパクトを与える再開発事業や駅前広場整備など核的事業を着実に進めたことが大きい。

また、中心市街地活性化協議会を中心に大型空き店舗への誘致活動を行い、ドン・キホーテが出店するなど、各関係先が連携し活性化に取り組んできたことも、まちなかに新たな活気が生まれつつある要因の一つと考える。

一方、柳ヶ瀬において商業活性化及びにぎわいの創出が達成できなかった要因としては、商店街やまちづくり団体等によるイベント等ソフト施策の展開や、岐阜市柳ヶ瀬あい愛ステーションの開設により活性化の兆しは見えつつあるものの、リーマンショック以降の景気低迷等の影響を受け、一部の事業に遅れや計画変更等が生じるなど、柳ヶ瀬「まちの魅力」を十分に高めることができず、その結果、岐阜駅周辺で生まれているにぎわいを柳ヶ瀬に取り込むことが期待していたほどできなかったことと考える。

### 4. 中心市街地活性化協議会として、計画期間中の取組をふり返ってみて(協議会としての意見)

#### 【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

平成19年の岐阜市中心市街地活性化基本計画の認定以降、岐阜シティ・タワー43及び岐阜スカイウイング37のツインタワー完成、全国最大級の面積を誇る岐阜駅北口駅前広場の整備など、新たな岐阜市のシンボルとなる核的開発が着実に実現するとともに、商店街やまちづくり団体等においてイベント開催やゆるキャラを活用したPRなど、にぎわい創出のための各種ソフト施策が展開された結果、居住人口や通行量において活性化の兆しが現れるなど取組みの効果が始まっており、官民一体が活性化に向け各種事業を展開した結果であると言える。

特に、旧岐阜メルサファッション館へのドン・キホーテ出店は、協議会としてワーキングを開催し、商店街や商工会議所、岐阜市など官民一体となって誘致活動に取り組んだことが実を結んだものであり、若者の回遊等による新たなにぎわいが創出されている。

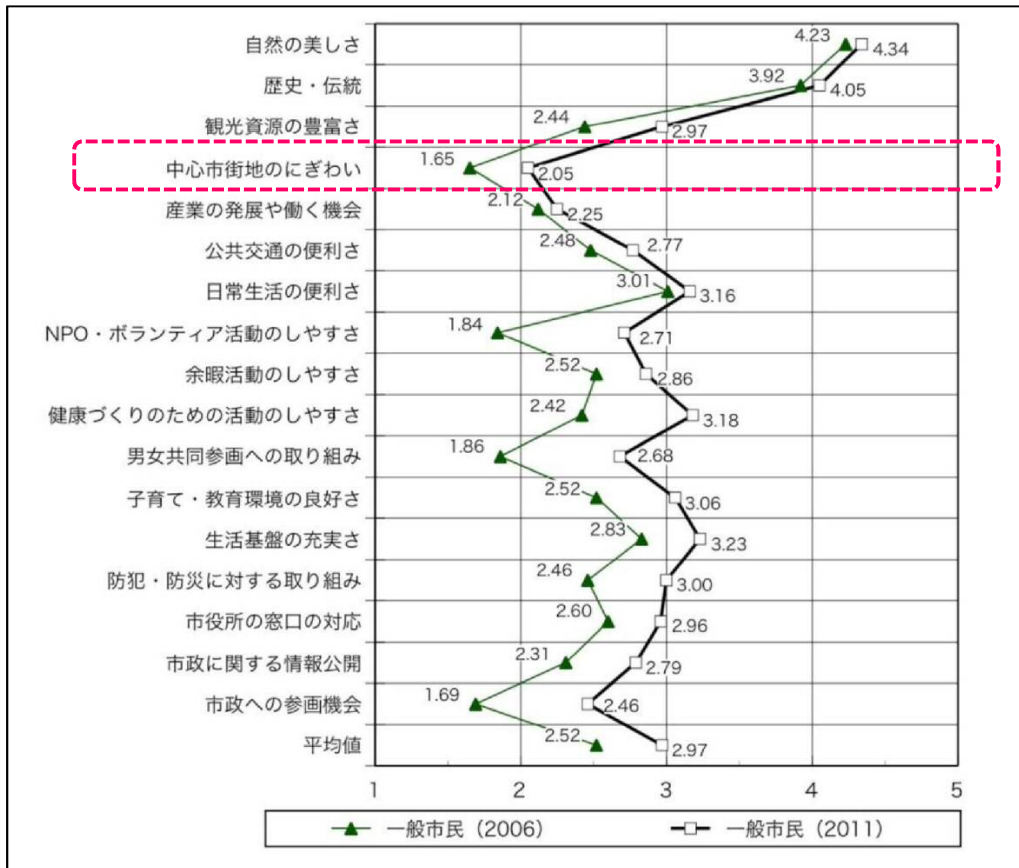
今後も引き続き、2期岐阜市中心市街地活性化基本計画のもと、柳ヶ瀬の活性化を主眼に中心市街地全体の活性化をさらに推し進めるべく、行政と連携しながら協議会として活性化に取り組んでいく。

### 5. 市民からの評価、市民意識の変化

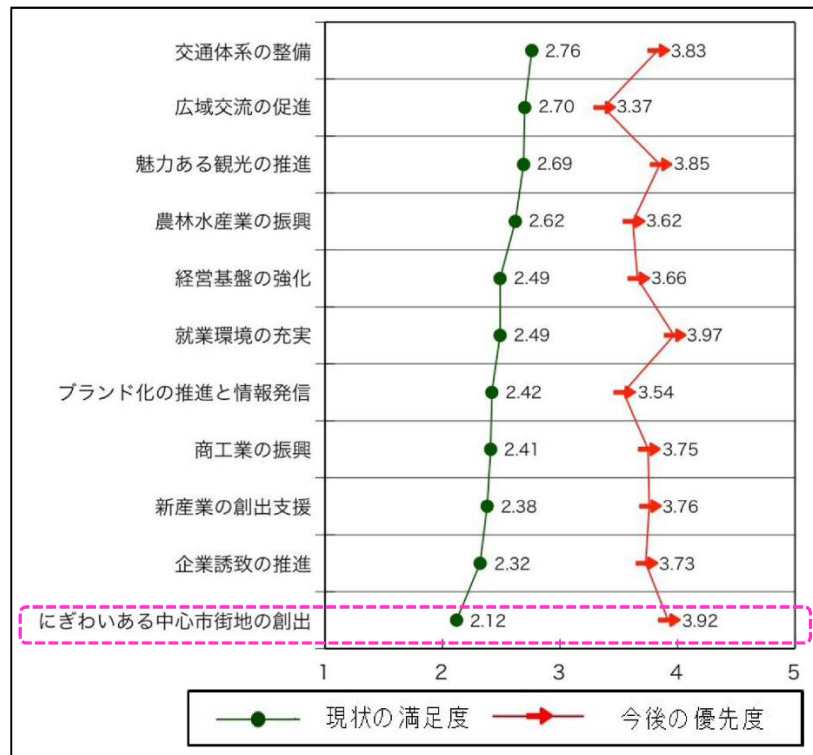
#### 【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

平成23年に実施した総合計画策定のための市民意識調査で、岐阜市のさまざまな要素について5段階評価で尋ねたところ、前回(平成18年)調査と比べると、中心市街地のにぎわいについては、前回より評価が高くなっており、取組みについて一定の評価がなされている。ただし、その評価自体は他の要素と比べると低い。



また、同調査にて政策分野別に各施策について5段階評価で尋ねたところ、中心市街地活性化については、他の施策と比べ、現状の満足度が低い一方、今後の優先度は高い、との結果である。



さらに、平成 23 年度に開催した市民等との意見交換や意見募集等においては、まちの活性化に関して、イベントの充実やまちなか居住等の提案がなされており、活性化が道半ばである柳ヶ瀬については、さらなる活性化の取り組みが望まれている。

**【総合計画策定のための市民討議会における提案等】**

**(一部抜粋、要約)**

**○活力あふれる都市づくりに関する提案等**

- ・まちなかイベントの充実
- ・道草したくなるまち（駅前から柳ヶ瀬までの道に食べ歩きスポットを）
- ・三世代みんなが一緒に行けるまち
- ・商業と住宅の一体化（柳ヶ瀬に住んで中心市街地での人の流れをつくる）

**【総合計画策定のための市民意見交換会及び意見募集における意見】**

**(一部抜粋)**

**○柳ヶ瀬について**

- ・中心市街地としての柳ヶ瀬の活性化に、取り組みが必要である。
- ・柳ヶ瀬がかなり店が減ってしまい寂しい。毎月バザールをやってほしい。
- ・やななを活用するなどして、柳ヶ瀬をもっと盛り上げてほしい。

以上より、市民は、現状の中心市街地の活性化について、一定の評価をしながらも現状は十分ではなく、さらに積極的に取り組むべき分野であると考えていることを認識し、柳ヶ瀬を中心に、引き続き活性化への取り組みを進めていく必要がある。

**6. 今後の取組**

中活計画によって、岐阜市においてはまちなか居住、にぎわいの創出が一定程度進んだ。

しかし、柳ヶ瀬の活性化は道半ばであることから、2期計画においては、柳ヶ瀬の活性化を主眼に、中心市街地活性化協議会等、関係者が連携しながら各種取り組みを進め、中心市街地全体の活性化につなげていく。

**(参考)**

**各目標の達成状況**

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
まちなか居住の推進	居住人口（人）	10,766	11,600	11,194	H24.10	B
商業の活性化の増進	小売業年間商品販売額（百万円）	54,674	55,900	47,773	H24.6	c
	空き店舗数（柳ヶ瀬地区）（店舗）	34	28	32	H24.8	B
にぎわいの創出	歩行者・自転車通行量（人）	80,866	84,000	78,482	H24.7	C

注) 達成状況欄 (注：小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

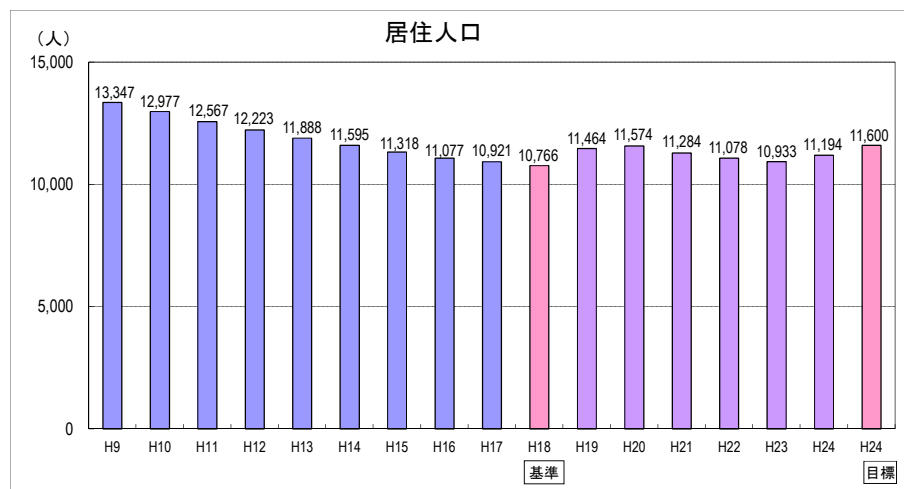
- A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)
- a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)
- B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)
- b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)
- C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)
- c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

目標「まちなか居住の推進」

「居住人口」※目標設定の考え方基本計画 P54～P56 参照

1. 目標達成状況の総括



年	(人)
H18	10,766 (基準年値)
H19	11,464
H20	11,574
H21	11,284
H22	11,078
H23	10,933
H24	11,194
H24	11,600 (目標値)

※調査方法；住民基本台帳を基に算出  
 ※調査月；10月  
 ※調査主体；岐阜市  
 ※調査対象；中心市街地内の居住者

【総括】

岐阜シティ・タワー43や岐阜スカイウイング37などの再開発事業が着実に進捗するとともに、複数の民間マンション建設もあり、それらによる大規模な住宅供給が進んだ結果、居住人口については基準値を上回り、長く続いてきた減少傾向に歯止めがかかった。しかし、平成24年8月に完成した岐阜スカイウイング37の分譲マンションへの本格的な入居開始が計画終了後となったこともあり、目標値には及ばなかった。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

① 岐阜駅西地区第一種市街地再開発事業（岐阜駅西地区市街地再開発組合）

支援措置名及び支援期間	市街地再開発事業(平成15年度～平成19年度)
事業開始・完了時期	平成15年度～平成19年度
事業概要	駅前拠点施設に相応しい都市型住宅や商業施設等を含む複合施設の整備を図る。 ・敷地面積:約5,400㎡ ・延床面積:約57,600㎡ ・規模:地上43階、地下1階 ・主要用途:住宅351戸、商業、福祉、医療施設
目標値・最新値	目標値:510人増 最新値:分譲マンションは即日完売となり、サービス付き高齢者向け住宅もほぼ満室となっている。
達成状況	達成した。
達成した(出来なかった)理由	再開発事業の完成により、住宅が供給されたため。
計画終了後の状況(事業効果)	岐阜シティ・タワー43が平成19年10月にグランドオープンし、分譲マンションが即日完売となるなど、居住人口を増加させることができた。また業務・商業テナント等が入居するとともに、広場デッキ「スクエア43」はイベントに活用されており、にぎわい拠点の一つとなっている。

事業の今後について	実施済み
-----------	------

②. 問屋町西部南街区第一種市街地再開発事業（問屋町西部南街区市街地再開発組合）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等)(平成18年度～平成24年度)
事業開始・完了時期	平成18年度～平成24年度
事業概要	JR岐阜駅前という好立地条件を活かし、駅前に相応しい商業施設を含む複合ビルの整備を図る。 ・敷地面積:約6,900㎡ ・延床面積:約55,000㎡ ・規模:地上37階建 ・主要用途:住宅270戸、商業、業務施設、ホテル、駐車場
目標値・最新値	目標値:567人増 最新値:地権者分を除く販売戸数254戸は全戸完売となっており、入居後は、ほぼ想定どおりの効果が発現すると考えられる。
達成状況	計画終了時点では効果は発現しておらず、達成していない。
達成した（出来なかった）理由	本格的な入居開始が計画期間終了後となったため、期間中に事業効果が発現しなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	岐阜スカイウイング37が平成24年8月に完成し、岐阜シティ・タワー43とともにツインタワーがそびえる新たな岐阜市の玄関口が形成された。分譲マンションは全戸が完売し、居住人口を増加させることができ、また、岐阜大学のサテライトキャンパスやホテル、業務・商業テナント等が入居し、にぎわいの拠点となりつつある。
事業の今後について	実施済み

③. 柳ヶ瀬通北地区第一種市街地再開発事業（柳ヶ瀬通北地区市街地再開発組合）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等)(平成18年度～平成23年度)
事業開始・完了時期	平成18年度～平成23年度
事業概要	岐阜市の中心商業地である柳ヶ瀬の中心部において、商業施設と居住機能の整備を行う。 ・敷地面積:約1,200㎡ ・延床面積:約3,700㎡ ・規模:地上8階建 ・主要用途:住宅22戸、商業、福祉施設、駐車場
目標値・最新値	目標値:54人増 最新値:賃貸住宅は約20戸の入居があり、25名程の増加と推計される。
達成状況	達成していない。
達成した（出来なかった）理由	事業の計画変更により、建物規模を小さくし、住宅戸数を約半数(40戸→20戸)としたため、目標値には届かなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	柳ヶ瀬本通り沿いにオアシス柳ヶ瀬ビルが平成24年3月に完成し、居住者が増えるとともに、通りの雰囲気明るくなった。また敷地内の広場「ゆめてらす柳ヶ瀬」はイベント等で活用されており、にぎわい拠点の一つとなっている。
事業の今後について	実施済み

### 3. 今後について

市街地再開発事業や民間マンション等による大規模な住宅供給により、目標値には届かないものの基準値を上回り、長く続いてきた居住人口の減少傾向に歯止めがかかった。

また、岐阜スカイウイング37について、計画終了後に本格的な入居が開始されており、さらなる人口増加が見込まれる。

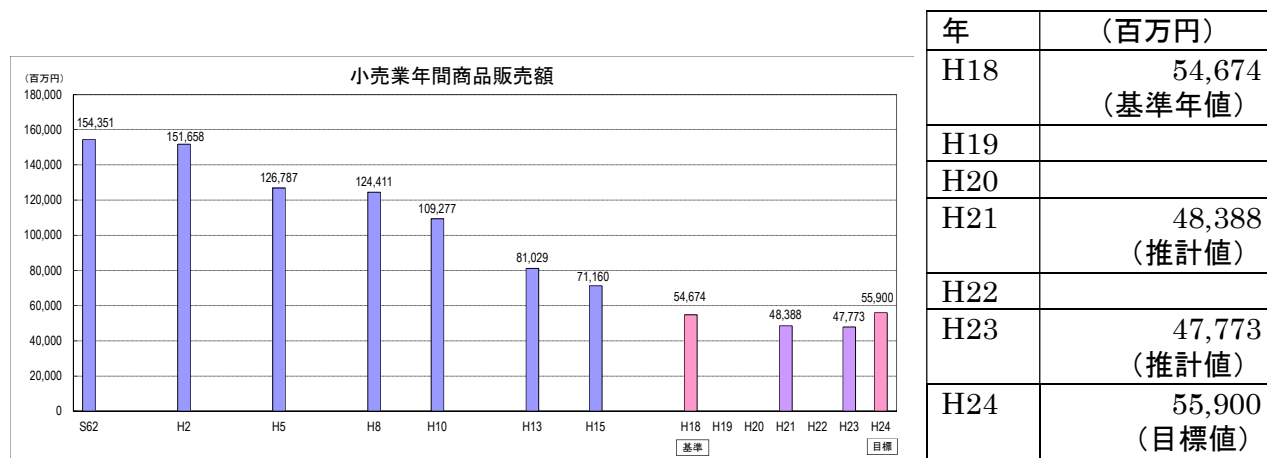
長期的かつ全市的に人口減少・高齢化が進む中で、岐阜市としては今後も集約型都市構造への転換を推し進めていく必要がある。また、岐阜市総合計画においては集約型都市構造への転換の先導役としてまちなか居住の推進を位置付けていることから、再開発事業等による住宅供給、まちなか居住支援、生活環境の整備により、今後も引き続き、まちなか居住を推進していく。

## 個別目標

### 目標「商業の活性化の増進」

「小売業年間商品販売額」※目標設定の考え方基本計画 P54～P56 参照

#### 1. 目標達成状況の総括



※調査方法；平成19年商業統計調査及び大型小売店舗販売額を基に推計

〔平成19年商業統計調査の結果から、中心市街地の販売額に占める大型店販売額の割合を算出し、聞き取り調査により把握した平成23年度の大型店の販売額から中心市街地の販売額を割り戻した。〕

※調査月；6月（平成22年、平成24年）

※調査主体；岐阜市

※調査対象；中心市街地内の大型小売店舗

#### 【総括】

岐阜市柳ヶ瀬あい愛ステーションの開設や商店街イベントの実施、空き店舗対策事業の拡充など、商業活性化の各種事業を展開したものの、計画当初では予想しなかったリーマンショックやそれ以降の景気低迷により消費行動が抑えられ、またデフレや低価格志向が進むなど外的要因の影響は大きく、大型店舗である岐阜メルサの閉店や、商店街のアーケード改築事業や景観統一事業など一部事業に遅れや計画変更が生じ、柳ヶ瀬の魅力向上が十分に果たせなかったことから、商品販売額は基準値を下回り、目標を達成できなかった。

#### 2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

##### ①. 岐阜駅西地区第一種市街地再開発事業（岐阜駅西地区市街地再開発組合）

支援措置名及び支援期間	市街地再開発事業(平成15年度～平成19年度)
事業開始・完了時期	平成15年度～平成19年度
事業概要	駅前拠点施設に相応しい都市型住宅や商業施設等を含む複合施設の整備を図る。 ・敷地面積:約5,400㎡ ・延床面積:約57,600㎡ ・規模:地上43階、地下1階 ・主要用途:住宅351戸、商業、福祉、医療施設
目標値・最新値	目標値:1,091百万円 最新値:市街地全体でH23推計47,773百万円
達成状況	—
達成した(出来なかった)理由	—
計画終了後の状況(事業効果)	岐阜シティ・タワー43が平成19年10月にグランドオープンし、分譲マンションが即日完売となるなど、居住人口を増加させることができた。また業務・商



	業テナント等が入居するとともに、広場デッキ「スクエア43」はイベントに活用されており、にぎわい拠点の一つとなっている。
事業の今後について	実施済み

②. 問屋町西部南街区第一種市街地再開発事業（問屋町西部南街区市街地再開発組合）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等)(平成18年度～平成24年度)
事業開始・完了時期	平成18年度～平成24年度
事業概要	JR岐阜駅前という好立地条件を活かし、駅前に相応しい商業施設を含む複合ビルの整備を図る。 ・敷地面積:約6,900㎡ ・延床面積:約55,000㎡ ・規模:地上37階建 ・主要用途:住宅270戸、商業、業務施設、ホテル、駐車場
目標値・最新値	目標値:935百万円 最新値:市街地全体でH23推計47,773百万円
達成状況	達成していない。
達成した(出来なかった)理由	岐阜スカイウイング37は平成24年8月に完成したところであり、今後、効果が発現していくこととなる。
計画終了後の状況(事業効果)	岐阜スカイウイング37が平成24年8月に完成し、岐阜シティ・タワー43とともにツインタワーがそびえる新たな岐阜市の玄関口が形成された。分譲マンションは全戸が完売し、居住人口を増加させることができ、また、岐阜大学のサテライトキャンパスやホテル、業務・商業テナント等が入居し、にぎわいの拠点となりつつある。
事業の今後について	実施済み

③. 新岐阜百貨店跡地商業施設整備事業（名古屋鉄道株式会社）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成19年度～平成21年度
事業概要	名鉄岐阜駅新駅舎の南側に物販・飲食を主とした低層構造の商業施設を整備する。 ・敷地面積:約3,500㎡ ・延べ面積:6,004㎡、店舗面積:3,634㎡ ・規模構造:鉄骨造2階建て ・店舗概要:全19店舗(高質食品スーパー1、飲食6、物販8、サービス4)
目標値・最新値	目標値:1,675百万円 最新値:市街地全体でH23推計47,773百万円
達成状況	—
達成した(出来なかった)理由	—
計画終了後の状況(事業効果)	名鉄岐阜駅の新商業ビル「ECT(イクト)」がオープン。食品スーパーや物販、飲食、サービスなど20店舗以上が営業。まちなか居住者や駅利用者などでにぎわっている。
事業の今後について	実施済み

④. 商店街情報発信拠点整備事業（一般財団法人岐阜市にぎわいまち公社）

支援措置名及び支援期間	戦略的中心市街地中小商業等活性化支援事業補助金(平成20年度～平成22年度)
事業開始・完了時期	平成20年度～平成22年度
事業概要	来街者の利便性向上と商店街の魅力向上のため、商店街にインフォメーションセンターなどの拠点施設を整備する。
目標値・最新値	目標値:— 最新値:—
達成状況	—
達成した(出来なかった)理由	—
計画終了後の状況(事業効果)	平成20年7月、柳ヶ瀬本通り沿いに「岐阜市柳ヶ瀬あい愛ステーション」を開設。来街者の休憩スペースや多目的トイレを設置するとともに、FM放送の実施や情報チラシの掲示、配布を行っている。またスペースを無料で貸し出し、各種セミナーやイベントが開催されており、開設以来、計画終了までの約4年間で累計23万5千人、一日平均約180人の利用がなされている。
事業の今後について	実施済み (引き続き2期計画において運営していく)

⑤. 柳ヶ瀬通北地区第一種市街地再開発事業（柳ヶ瀬通北地区市街地再開発組合）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等)(平成18年度～平成23年度)
事業開始・完了時期	平成18年度～平成23年度
事業概要	岐阜市の中心商業地である柳ヶ瀬の中心部において、商業施設と居住機能の整備を行う。 ・敷地面積:約1,200㎡ ・延床面積:約3,700㎡ ・規模:地上8階建 ・主要用途:住宅約20戸、商業、福祉施設、駐車場
目標値・最新値	目標値:140百万円 最新値:市街地全体でH23推計47,773百万円
達成状況	—
達成した(出来なかった)理由	—
計画終了後の状況(事業効果)	柳ヶ瀬本通り沿いにオアシス柳ヶ瀬ビルが平成24年3月に完成し、居住者が増えるとともに、通りの雰囲気明るくなった。また、敷地内の広場「ゆめてらす柳ヶ瀬」はイベント等で活用されており、にぎわい拠点の一つとなっている。
事業の今後について	実施済み

3. 今後について

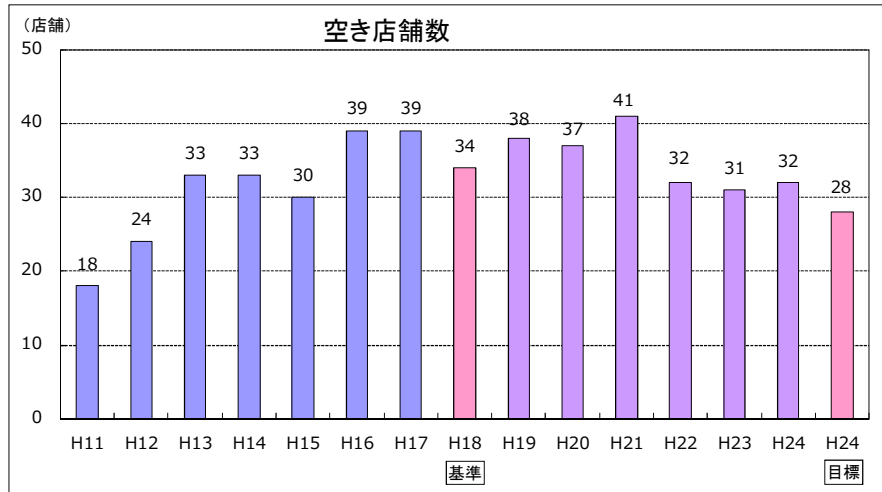
計画当初では予想しなかったリーマンショック及びそれ以降の景気低迷により消費活動が抑えられ、またデフレや低価格志向が進むなどにより、販売額は基準値を下回っている。

今後は、再開発事業や新規出店の促進、魅力的なイベント開催など各種取り組みにより柳ヶ瀬のまちの魅力を高めるとともに、岐阜駅周辺・岐大跡地周辺との回遊性を高めることでにぎわいを創出し、商業の活性化につなげていく。

目標「商業の活性化の増進」

「空き店舗数」※目標設定の考え方基本計画 P54～P56 参照

1. 目標達成状況の総括



年	(店舗)
H18	34 (基準年値)
H19	38
H20	37
H21	41
H22	32
H23	31
H24	32
H24	28 (目標値)

※調査方法； 目視による調査

※調査月； 2月（最終年度(H24)のみ 8月）

※調査主体； 岐阜市

※調査対象； 柳ヶ瀬本通り、長良橋通り、徹明通り、金華橋通りに囲まれた地域（本通りに面した北側の店舗を含む）の店舗 1階部分

【総括】

空き店舗へ出店する場合の家賃補助を行う空き店舗対策事業を実施してきたが、制度のPR不足や空き店舗の大家との連携不足等により新規出店を十分に促進できなかったことや、計画当初では予想しなかったリーマンショックやそれ以降の景気低迷の影響により、空き店舗数は基準値からは減少したものの、目標値には及ばなかった。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 空き店舗対策事業（岐阜市）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成 18 年度～
事業概要	店舗賃借料の一部を助成することにより、出店に意欲ある事業者を空き店舗に集積し、商店街の構造の転換を促進する。
目標値・最新値	目標値:34 店舗 最新値:10 店舗(平成 24 年 8 月現在)
達成状況	達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	平成 19 年度から 22 年度までの 4 年間でわずか 3 件しか本制度が利用されておらず、その原因は制度のPR不足や空き店舗の大家との連携不足等が考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	平成 23 年度からは空き店舗紹介窓口を設置するとともに空き店舗ツアーを開催するなど、事業者の出店意欲を高める取り組みを進めた結果、計画期間中に 10 店舗が本事業を活用し空き店舗に出店しており、空き店舗の解消に一定の効果があった。
事業の今後について	引き続き、空き店舗対策事業を実施していく。

### 3. 今後について

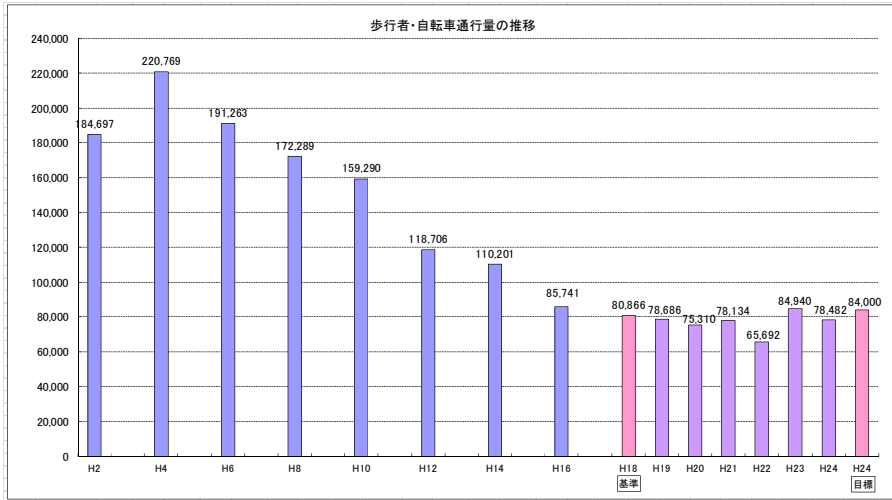
目標値には届かなかったものの、平成23年4月のドン・キホーテ柳ヶ瀬店の出店以降、周辺に新規出店が徐々に進むなど柳ヶ瀬の一部地域で明るい兆しが見えており、基準値と比べ若干改善している。

今後は、空き店舗対策事業や空き店舗ツアー、空き店舗紹介窓口など新規出店を促進する各種取り組みを進め、空き店舗の減少を目指す。

目標「にぎわいの創出」

「歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P54～P56 参照

1. 目標達成状況の総括



年	(人)
H18	80,866 (基準年値)
H19	78,686
H20	75,310
H21	78,134
H22	65,692
H23	84,940
H24	78,482
H24	84,000 (目標値)

- ※調査方法；歩行者及び自転車を対象とした通行量調査。休日の午前10時～午後7時まで。
- ※調査月；夏季（7月あるいは8月）
- ※調査主体；岐阜市
- ※調査対象；中心市街地内28地点（柳ヶ瀬7地点、玉宮2、岐阜駅周辺9、岐阜大学医学部等跡地周辺10）

【総括】

岐阜駅周辺では、岐阜シティ・タワー43や岐阜スカイウイング37などの再開発事業や岐阜駅北口駅前広場の整備など核的開発が進んだことから、歩行者・自転車通行量は基準年と比べ増加し、新たなにぎわいが創出される一方、柳ヶ瀬においては、岐阜市柳ヶ瀬あい愛ステーションの開設や商店街イベントの実施など各種事業を展開したものの、歩行者・自転車通行量は基準値を下回り、結果、中心市街地全体では、最新値である平成24年度数値は基準値を下回った。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

① 岐阜駅西地区第一種市街地再開発事業（岐阜駅西地区市街地再開発組合）

支援措置名及び支援期間	市街地再開発事業(平成15年度～平成19年度)
事業開始・完了時期	平成15年度～平成19年度
事業概要	駅前拠点施設に相応しい都市型住宅や商業施設等を含む複合施設の整備を図る。 ・敷地面積:約5,400㎡ ・延床面積:約57,600㎡ ・規模:地上43階、地下1階 ・主要用途:住宅351戸、商業、福祉、医療施設
目標値・最新値	岐阜駅周辺地区通行量 目標値:約40,920人 最新値: 40,082人(H24.7月)
達成状況	達成していない(ただし、平成23年度は44,928人であり達成)
達成した(出来なかった)理由	岐阜駅周辺においては、岐阜シティ・タワー43のグランドオープンや名鉄岐阜駅新商業ビル ECT のオープン等により集客が図られるとともに、駅前広場整備によるイベント開催等により、大きなにぎわいが創出され、平成23年度の実績では目標を達成した。また、平成24年8月に岐阜スカイウイング37が完成したところであり、今後、更なるにぎわいの創出が期待される。

計画終了後の状況（事業効果）	岐阜シティ・タワー43が平成19年10月にグランドオープンし、分譲マンションが即日完売となるなど、居住人口を増加させることができた。また業務・商業テナント等が入居するとともに、広場デッキ「スクエア43」はイベントに活用されており、にぎわい拠点の一つとなっている。
事業の今後について	実施済み

②. 問屋町西部南街区第一種市街地再開発事業（問屋町西部南街区市街地再開発組合）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等)(平成18年度～平成24年度)
事業開始・完了時期	平成18年度～平成24年度
事業概要	JR岐阜駅前という好立地条件を活かし、駅前に相応しい商業施設を含む複合ビルの整備を図る。 ・敷地面積:約6,900 m <sup>2</sup> ・延床面積:約55,000 m <sup>2</sup> ・規模:地上37階建 ・主要用途:住宅270戸、商業、業務施設、ホテル、駐車場
目標値・最新値	岐阜駅周辺地区通行量 目標値:約40,920人 最新値: 40,082人(H24.7月)
達成状況	達成していない(ただし、平成23年度は44,928人であり達成)
達成した(出来なかった)理由	岐阜駅周辺においては、岐阜シティ・タワー43のグランドオープンや名鉄岐阜駅新商業ビル ECT のオープン等により集客が図られるとともに、駅前広場整備によるイベント開催等により、大きなにぎわいが創出されており、平成23年度の実績では目標を達成した。また、平成24年8月に岐阜スカイウイング37が完成したところであり、今後、更なるにぎわいが創出される。
計画終了後の状況（事業効果）	岐阜スカイウイング37が平成24年8月に完成し、岐阜シティ・タワー43とともにツインタワーがそびえる新たな岐阜市の玄関口が形成された。分譲マンションは全戸が完売し、居住人口を増加させることができ、また、岐阜大学のサテライトキャンパスやホテル、業務・商業テナント等が入居し、にぎわいの拠点となりつつある。
事業の今後について	実施済み

③. 新岐阜百貨店跡地商業施設整備事業（名古屋鉄道株式会社）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成19年度～平成21年度
事業概要	名鉄岐阜駅新駅舎の南側に物販・飲食を主とした低層構造の商業施設を整備する。 ・敷地面積:約3,500 m <sup>2</sup> ・延べ面積:6,004 m <sup>2</sup> 、店舗面積:3,634 m <sup>2</sup> ・規模構造:鉄骨造2階建て ・店舗概要:全19店舗(高質食品スーパー1、飲食6、物販8、サービス4)
目標値・最新値	岐阜駅周辺地区通行量 目標値:約40,920人 最新値: 40,082人(H24.7月)
達成状況	達成していない(ただし、平成23年度は44,928人であり達成)

達成した（出来なかった）理由	岐阜駅周辺においては、岐阜シティ・タワー43のグランドオープンや名鉄岐阜駅新商業ビル ECT のオープン等により集客が図られるとともに、駅前広場整備によるイベント開催等により、大きなにぎわいが創出されており、平成 23 年度の実績では目標を達成した。また、平成 24 年 8 月に岐阜スカイリング37が完成したところであり、今後、更なるにぎわいが創出される。
計画終了後の状況（事業効果）	名鉄岐阜駅の新商業ビル「ECT(イクト)」がオープン。食品スーパーや物販、飲食、サービスなど 20 店舗以上が営業。まちなか居住者や駅利用者などでにぎわっている。
事業の今後について	実施済み

④. 柳ヶ瀬通北地区第一種市街地再開発事業（柳ヶ瀬通北地区市街地再開発組合）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等)(平成 18 年度～平成 23 年度)
事業開始・完了時期	平成 18 年度～平成 23 年度
事業概要	岐阜市の中心商業地である柳ヶ瀬の中心部において、商業施設と居住機能の整備を行う。 ・敷地面積:約 1,200 m <sup>2</sup> ・延床面積:約 3,700 m <sup>2</sup> ・規模:地上 8 階建 ・主要用途:住宅約 20 戸、商業、福祉施設、駐車場
目標値・最新値	柳ヶ瀬地区通行量 目標値:約 32,390 人 最新値: 30,120 人( H24.7 月)
達成状況	達成していない。
達成した（出来なかった）理由	柳ヶ瀬においては、近年の景気低迷等の影響を受け、商店街アーケードの改築事業や景観統一事業といった商店街主体の一部事業について遅れや計画変更が生じるなど、柳ヶ瀬の魅力向上が十分には果たせなかったことから、岐阜駅周辺のにぎわいが想定ほど柳ヶ瀬へ波及しなかったと考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	柳ヶ瀬本通り沿いにオアシス柳ヶ瀬ビルが平成 24 年 3 月に完成し、居住者が増えるとともに、通りの雰囲気明るくなった。また、敷地内の広場「ゆめてらす柳ヶ瀬」はイベント等で活用されており、にぎわい拠点の一つとなっている。
事業の今後について	実施済み

⑤. 岐阜大学医学部等跡地第 1 期施設整備事業（岐阜市）

支援措置名及び支援期間	まちづくり交付金(平成 19 年度～平成 20 年度) 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画)(平成 21 年度～平成 24 年度) 社会資本整備総合交付金(暮らし・にぎわい再生事業)(平成 22 年度～平成 24 年度)
事業開始・完了時期	平成 16 年度～平成 26 年度
事業概要	岐阜大学医学部等跡地において、(仮称)中央図書館や(仮称)市民活動交流センター等の複合施設「みんなの森 ぎふメディアコスモス」及び(仮称)憩い・にぎわい広場を整備する。

目標値・最新値	岐阜大学医学部等跡地周辺地区通行量 目標値 約 6,730 人 最新値 4,784 人
達成状況	達成していない。
達成した（出来なかった）理由	「つかさのまち 夢プロジェクト」について、平成 24 年度の完成を予定していたが、土地の譲渡等に時間がかかり、期間内に完成しなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	工事着工に向けて準備中である。
事業の今後について	平成 26 年度の完成をめざし、2 期計画においても、引き続き実施していく。

### 3. 今後について

最終数値は目標値を下回ったものの、核的開発が進む岐阜駅周辺を中心に新たなにぎわいが生れ、平成 23 年度は目標値を上回るなど、一定程度のにぎわいを創出することができた。

今後は、停滞傾向が続く柳ヶ瀬の活性化を図り、中心市街地全体のにぎわい創出につなげるため、柳ヶ瀬のにぎわい創出を目指す。高島屋南地区再開発の促進や、その他集客施設の整備、新規出店の促進や魅力的なイベントの開催などにより、柳ヶ瀬のまちの魅力を高め、集客力を高める。同時に、歩行空間・自転車走行環境の整備や公共交通の充実、スマートウェルネスぎふ推進のためのウォーキング等イベントの開催やまちなか歩きの推進などにより、岐阜駅周辺・岐大跡地周辺との回遊性を高め、にぎわいを柳ヶ瀬に波及させる。